

学生のみなさんへ

学長 野口 博

新型コロナウイルス「第3波」に対応した感染防止行動の徹底について

新型コロナウイルス感染症の「第3波」が到来し、昨日（11月18日）は、静岡県内でも87人の感染が確認されました。これに伴い、静岡県の県内評価が1段階上がり、「感染移行期・後期」から「感染まん延期・前期」に移行しました（政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会による感染段階は、ステージⅡ相当で、変更はありません）。

更に、特定地域では、市中感染が広がっている可能性があるとの情報もあります。そこで、改めて、

- ・3密回避
- ・マスク着用
- ・手指消毒

など、自己防衛として、自分自身が新型コロナウイルス感染防止の行動を、学内や学外を問わず、できているか再確認し、その徹底をお願いします。

また、発熱などの感染が疑われる症状が発生した場合には、「新型コロナウイルス感染が疑われる場合等の対応マニュアル」(https://www.sist.ac.jp/pdf/corona_taiou_taioumanyuaru.pdf)に従って、登校はせずに、まずは学務課に連絡して下さい。

本学では、感染防止措置のため、今後も換気の徹底を図ります。これらから寒さが本格化する時期となりますので、教室等の換気がなされることを前提に、上着やひざ掛けを活用するなど寒さ対策を各自でも行ってください。

今後も、協力して感染防止を図っていきましょう。

静岡県の感染者数の推移

（出典：NHK 11月18日までの情報を表示）



「黄色い棒グラフ」にあわせて表示される「グレーの折れ線グラフ」は、その日までの1週間の平均値を示す。

（添付資料）

- ・静岡県の「6段階警戒 レベル」と「レベル毎の行動制限」（出典：静岡県HP）
- ・感染リスクが高まる「5つの場面」

（出典：国の新型コロナウイルス感染症対策本部（第45回）配付資料 令和2年11月10日開催）

以上

「6段階警戒 レベル」と「レベル毎の行動制限」(新型コロナウイルス感染症対策)

(令和2年11月)

レベル	本県の警戒レベル			国警戒ステージ	基本的行動内容					
	県内	県外	国外		県内評価	県内移動に関する行動制限	県外評価	県境を跨ぐ移動に関する行動制限	国際評価	
6	【都市封鎖級】			国外は警戒以上	IV	感染まん延期後期	外出禁止や休業の要請など	感染移行期以上	禁止の要請など	多数又は複数の国・地域において感染が拡がっている
5	【特別警戒】				III	感染まん延期中期	県内の感染状況を踏まえた不要不急の外出自粛や営業時間短縮の要請を含む必要な行動制限など	(感染状況が厳しい地域の状況等を評価)	自粛の要請など	
4	【警戒】	【警戒】	II相当		感染まん延期前期	施設での感染防止対策を徹底 感染リスクの高い行為を回避 必要に応じて訪問自粛などの行動制限	感染移行期 後期		県内者の県外への移動及び県外者の県内への移動については対象地域に応じて行動制限・注意を要請(注1)	
					感染移行期 前期					
3	【注意】	【注意】	I相当		感染限定期			3密の回避を含む「新しい生活様式」の徹底		
					感染休止期	3密を極力回避。基本的な感染対策(注2)の励行など「新しい生活様式」を心がける。感染弱者へ配慮				
2	【ほぼ日常】	【注意】		感染休止期	3密をできる限り回避。基本的な感染対策(注2)の励行。感染弱者へ配慮	感染休止期	県境を越える移動可。ただし、感染者の多い地域への移動/同地域からの移入は注意			
1 ₁₋₁	【ほぼ日常】	【ほぼ日常】		感染終息	県内に関する行動制限無し	国内の全域が感染終息	国内に関する行動制限無し 国外との行動制限が一部有り	一部地域においては感染が終息していない		
1 ₀₋₁	【日常】	【日常】 (出入国制限あり)	【注意】	感染終息	国内・国外のどことの関係でも行動制限無し		国内・国外のどことの関係でも行動制限無し	ほぼ終息		

(注1) 県が更新・発表する地域の感染状況に応じた県境を跨ぐ移動制限区分に応じて判断

(注2) 基本的感染対策：身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなど

(注3) 感染レベル低位の対策は、より高位のレベルでの対策に含まれる

※ 県内評価の変更点(令和2年11月)：国の新型コロナウイルス感染症対策分科会(令和2年8月7日)で示された国警戒ステージ等を踏まえ、感染まん延期を、「前期」・「中期」・「後期」の3段階に分けた。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

